



# 日本女医学会誌

公益社団法人日本女医会  
復刊第 213 号  
2013 年 1 月 25 日発行  
題字 吉岡彌生

## 巻頭言 日本女医会創立110年を経て、～これから～

会長 津田喬子

会員の皆様には、平素より日本女医会活動に熱心なご協力とご支援を頂きまして誠にありがとうございます。

東日本大震災から 2 回目となりますお正月を、被災された東北地方各地の会員の皆様はいかがお迎えになられたでしょうか。この新しい年が皆様にとりまして良い年となりますことを心より願ってやみません。

2012 年は日本女医会の創立 110 周年に当たることから、年度を締めくくり、来る 3 月 24 日 (日) に創立 110 周年ならびに公益社団法人認定記念式典・祝賀会を開催することと致しました。橋本葉子元会長、小田泰子前会長、石原幸子 100 周年記念祝賀事業実行委員長を準備委員会に顧問として入っていただき、現在鋭意準備を進めております。

この祝賀事業には、日本女医会が 110 年という長い歴史の中で医学・医療を通して社会貢献して来たこと、先達の努力によって今日の私たち女性医師が活躍できていること、何よりも医療における男女共同参画社会の実現は日本女医会の創立以来の到達目標であること、などを国内外に知っていただきたいとの思いを込めております。

式典に続き、公開講演会そして祝賀会を開催致します。公開講演会講師は独立行政法人理化学研究所発生・再生科学総合研究センター網膜再生医療研究プロジェクトリーダーとして、iPS 細胞の加齢黄斑変性治療への臨床応用の研究で世界の最先端を走っておられ

る高橋政代先生です。祝賀会には鹿児島大学大学院医歯薬総合研究科腫瘍学講座人体がん病理学教授であり世界的テナーとしてご活躍の米澤傑先生に、その素晴らしいテノールをご披露していただきます。さらに東京女子医科大学室内楽団の皆様による美しいハーモニイをお楽しみいただく予定です。どうぞお誘い合わせの上、お一人でも多くご参加いただきますよう心よりお願い申し上げます。

女性が医師となって以来、日本における女性医師の立場は向上したでしょうか。残念ながらこの国は、医療の場においても未だ男性優位であると思わざるを得ません。2012 年の世界経済フォーラムが発表した男女格差の指標の 1 つである Gender Gap Index は、135 カ国中日本は 101 位でした。日本医学会に所属する諸学会の理事はほとんど男性で構成されています。Gender Gap Index の評価要素である女性議員数も極めて少なく、202030 運動のかけ声は大きくても実数の変化は微々たるものです。少子高齢化のこの国において、私たち女性が頑張らなくては国を榮えさせることは無理とされています。

会員の皆様とともに、110 年の歴史にさらなる歴史を刻んでいきたいと思えます。本年が皆様にとりまして、より良い年となりますことを祈念申し上げます。

今後とも、ご支援およびご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 日本女医会誌 (第213号) もくじ

巻頭言 日本女医会創立 110 年を経て、～これから～

津田喬子 (1)

年頭所感 (2)

金田八重子、豊岡志保、鈴木カツ子、村田 郁、今井千草、伊藤富士子、保坂智子、野崎京子、石川知子、樗木晶子

第 6 回 医学を志す女性のためのキャリアシンポジウム

澤口彰子 (6)

国連と日本女医会との関わり (7)

特集「私と仕事の両立」小田泰子 (8)

子育て支援委員会 ゆいネット報告

対馬ルリ子、堀本江美、廣瀬玲子 (9)

東京都支部連合会総会講演会

青木正美、太田記代子、脇ゆうりか (10)

第 6 回軽井沢セミナー 馬場安紀子 (13)

京都支部の集い 石川知子 (14)

第 29 回国際女医会 会議・学術集会のご案内 (15)

理事会議事録、会員動静 (16)

お知らせ、投稿募集、寄附者一覧 (19)

第 2 回提言論文募集のご案内、編集後記 (20)



# 年頭 所感

## ご厚情に感謝



青森支部 **金田八重子**

*Kaneda Yaeko*

皆様、明けましておめでとうございます。平成24年10月、青森県女医会前会長木村あさの先生より、バトンを受けました金田でございます。千年に一度という大災害の際には、会長津田先生が遠路はるばる八戸において下さり、多額のお見舞金をお届け下さいました。日本女医会の皆様の大きな慰めと励ましをありがとうございました。早速、八戸市民病院に打診しましたところ、衛生携帯電話をとの事、八戸市民病院は三次救急医療に力を入れ、いち早くドクターヘリを取り入れ、青森県だけでなく、岩手県北、秋田県北等、広範囲に重症患者を受け入れております。東日本大震災の際にも医療支援チームとして駆けつけたものの、情報手段がパニック状態となり、石巻の病院が津波で孤立状態となったのを3日間も知らず、衛生電話があったら救出できたのにとの苦い経験から災害時の衛星電話の必要性が広く認識され、注文が殺到、品薄となりやっと一年以上して納品となりました。

遅ればせながら日本女医会のご厚情に心から感謝申し上げます。

## 平成 25 年を良い年に



山形支部 **豊岡志保**

*Toyoda Shiho*

昨年は山形県前支部長齊藤俊子先生が急逝されました。先生のお人柄から、葬儀に参列されたたくさんの方が、ご家族同様に偲んでいらっしゃいました。ご冥福を改めてお祈りいたします。

私が所属する日本リハビリテーション医学会では女性医師の支援するRJN（リハ女医 joy ネットワーク）が5年目を迎えました。学生や研修医向けに講演会

を行っています。また、女性医師向けの意見交換会やメンターが見つかりにくい若手医師がカリスマ教授に直接インタビューする企画をしています。今年は学会創立50周年に当たり、公開講座が様々な企画されています。リハ科ではない先生方も参加してみませんか？女性医師への支援は男性医師、医学生にもとても有効だと考えています。女性にとって働きやすい職場が男性にとっても働きやすい場所に、そして家庭も男女にとって居心地が良く、居どころのある場所になったら良いですね。蛇い（heavy）な時でも気持ちは明るく！

## 子供たちに残せるもの



宮城支部 **鈴木カツ子**

*Suzuki Katsuko*

新年明けましておめでとうございます。今年は蛇年、蛇は脱皮を繰り返しながら成長する生き物ですが、人間においては「一皮むけたね」などと表現されます。

さて昨年12月16日には衆議院議員選挙がありました。民主党は惨敗し、自民党が圧勝。2009年に巻き起こされた54人の多くのマドンナ議員たちも、落選の憂き目を見ました。

現在日本は人口減少国に突入り経済も斜陽の一途を辿っています。早急に考えなければならぬのが子供たちの将来です。少子化に歯止めをかけ、しっかりした教育を施さなければこの国の存続はありえません。フランスのようにまず女性国会議員を増やすことが、女性の地位向上の最短距離でしょう。いま全ての女性が手をつなぎ、政治と生活を真剣に考え行動する時なのです。

## 万感の思い



埼玉支部 **村田 郁**

*Murata Kaoru*

新年あけましておめでとうございます。埼玉支部では、現会員80名のご支援ご協力のもと、今年で第55回総会講演会を迎えることとなります。

昨年は市民一般公開講座にて、「女性のライフスタイルとメンタルヘルス」のテーマで女性生涯健康セン

ター所長の加茂登志子先生を講師にお迎えし、女性の心身医学と女性精神医学からの見解をおうかがいしました。

長い人生の中で、女性は結婚や育児、または介護等によるキャリア継続の判断、離職・復職等の多くの選択を求められます。揺れ動く心境にいるとき、医師を目指して勉学に励み、高い教育を身に着けた誇りを胸に、活躍が続けられる選択をしてほしいと願います。そのための勤務体制づくりや、歩むべき道を標すような現役女性医師との対話は重要です。これから女性活躍の場が増え、指導的立場の多くの医師が躍進できるように、私も支部を通して応援していきたいと思えます。

先行き不透明な今の日本ですが、明るいニュースも多々ありました。ノーベル賞受賞の大発見は医療にも大きな飛躍をもたらすはずで。私達は、医療科学技術の著しい進歩の中におります。これからの未来の技術に携わる素晴らしさに関心を寄せていきましょう。

日本における各分野での、女性の強い意志と見識が、女性活躍の場の構築になりますよう、心からお祈り申し上げます。

## 森林セラピー専門医として



都下東支部 **今井千草**  
Imai Chigusa

昨年に続き森林セラピー専門医としての活動を続けています。群馬、神奈川、福岡、宮崎、大分等、西日本を中心にセラピーに参加しました。特にノルディックウォーキングはストック2本を支えに腕の推進力も使って森や山を登り降りするので、膝や腰に負担がかからずとても楽に歩けます。帰宅後も筋肉の張りや攣れもなく快適です。森の中では五感が研ぎ澄まされ、まるで森と同化したような感覚に包まれます。まさに森林セラピーの醍醐味です。

そしてセラピー弁当は地場産の名物が盛り込まれ、豪華で大変美味しくいただけます。各地の歴史にも触れることができ、日本列島のルーツを知る等、知識も拡がり毎回楽しみです。

心身共に疲れたり、落ち込んだりした時は、とくに効果が大きいように感じます。

皆様、森を歩きませんか。体の芯から力が湧いてきますよ。

## 今年も様々な出会いを



愛知県支部 **伊藤富士子**  
Ito Fujiko

昨年4月より小栗貴美子前支部長の後任を務めさせていただくことになり、初めてのことに戸惑ううちに、はやくも9カ月が過ぎました。支部長として様々な責務を果たすうちに少しずつ自分の置かれた状況がみえてまいりました。まだ行くべき先が見えているわけではありませんが、一歩ずつ進んでいくうち自ずと道が開けるよさだという感触を実感しているところです。

何よりも、様々な方々との新たな出会いは最も貴重なものでした。例えば、津田会長も委員を務められます日本医師会男女共同参画委員会を通じて知り得た活発な活動を行っている先生方からは、全ての医師（女性医師だけでなく男性医師も含めた）のワーク・ライフバランスの実現をこれからの女医会活動の1つの柱にしたいという方向性を得ました。

今年も様々な出会いを得て、そうしたつながりを有機的に活用して女医会活動のさらなる飛躍に繋げられることを年頭における抱負といたします。

## 故郷を想う—国宝犬山城のこと—



大阪第7支部 **保坂智子**  
Hosaka Tomoko

年明けて先ずの想いは故郷の山河。眼前に木曾の清流が流れ、右手に犬山城が聳え、左手にはかねて城山荘とよばれた由緒ある建物がたっていた丘がそびえる。

春は桜花に彩られ、秋は紅葉が舞う。

城は日本最古城の一つ、天文6年（1537年）織田信長の叔父織田与次郎によって造られたという。その後家老の成瀬隼人正成が城主となり、代々成瀬家の所有となる。戦後、天皇の行幸があった時も、また続いて皇太子の行啓の時も個人の所有として紹介されている。行幸の時、児童代表で町長、商工会会長（伯父）につづいて数人の友と先頭に立って天皇を迎えたのを思い出す。

あれから数十年、本当に今も変わらぬ美しい故郷が今国宝となった城と共にある。

昭和40年（1965年）解体修理完了。全国唯一の

個人所有の城として保存されてきたが、平成16年(2004年)「財団法人犬山城白帝文庫」の所有となって現在にいたっている。

## いよいよ新時代へ



大阪第10支部 **野崎京子**

Nozaki Kyoko

新年明けましておめでとうございます。

日本女医会は公益社団法人となり、今年はその活動もいよいよ本格化してくると思われます。今後、従来の全国の各支部は、その位置付けや活動のあり方が問題になってきそうです。大阪の10の支部はまとめて日本女医会大阪支部連合会を結成しており、吉馴・宮本の両先生が本部の理事として活躍されています。新時代に相応しく、大阪地区での会員の活動も活性化していくと思います。女性医師の感性と視点を生かした社会での活動は今後ますます重要となってきます。しかし男女平等とはいいながら、女性がリーダーシップをとるのはなかなか困難な現状です。このような時こそ日本女医会の長い伝統と女性医師の全国組織であるという利点が、地域の会員の活動の支えになればと願っております。

## ときめいて



京都支部 **石川知子**

Ishikawa Tomoko

明けましておめでとうございます。

## 大文字の そのまま雪に 京暮るる

池本水也

平成15年に上記の文面で始まる案内状を支部の先生方にお送りするようになってから京都支部長も10年になります。その間、近畿ブロック会をさせて頂いたのもついこの間のように思えます。

平成19年より京大5、6回生の臨床研修施設として若い医学生が私のクリニックを訪れるようになっていますが、今までは男子学生ばかりで“女医会”参加を勧めることもできず、「先生、残念ながら“男医会”

ではないですね。」と男子医学研修生からからかわれていました。平成24年は初めて3名の京大女子医学生の方に“女医会”京都支部に参加して頂くことができました。私のクリニックにくる医学生はみんな素敵な人達ばかりで、青春の息吹をプンプン漂わせてやってきます。私も日々新装開店のつもりで、「明日はどんな若者がくるかなー?」と、こころときめいているこの頃です。

## 医学部学生との交流会



福岡支部 **樗木晶子**

Chishaki Akiko

明けましておめでとうございます。

1年が過ぎ去ることの早さを実感するこの頃です。

さて、以前にも書かせて頂きましたが、福岡では九州大学病院を中心に若い女性医師が結婚や育児にとまってキャリアを中断する事がないように「きらめきプロジェクト」を立ち上げ、6年目が過ぎました。現在、子育て女性医師の就労継続可能な短時間勤務システムの継続と、啓発事業を中心として活動しております。その一環として学生との交流も深めてきましたが、最近では医学部生にも少しずつ浸透してまいりました。女性医師ロールモデルの紹介に始まり、時流に先んじて育メン医師の紹介や女性弁護士から見た結婚と仕事の両立、死を間近に控えたら……等をテーマとして女性医師支援に関係ないテーマに及ぶようになりました。講演会はパネルディスカッションのあとに楽しく食を共にしながら、医師と学生が歓談し、交流を深めております。山口大学医学部生の参加もあり、福岡県にある久留米大学や福岡大学医学部、産業医科大学とも連携を築きつつあります。若人の力は目を見張るものがあります。若い力を貰いながら継続していきたいと思っております。

皆様方のご健勝を祈りながら新年の言祝ぎを申し上げます。

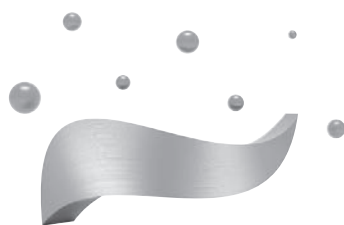




選択的DPP-4阻害剤 [2型糖尿病治療剤]

処方せん医薬品<sup>注</sup>

薬価基準収載



**ネシーナ錠** <sup>®</sup> 25mg  
12.5mg  
6.25mg

(アログリプチン安息香酸塩錠) 注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。

2012年6月作成



〔資料請求先〕

武田薬品工業株式会社

医薬営業本部  
〒103-8668 東京都中央区日本橋二丁目12番10号

## 第6回 医学を志す女性のための キャリアシンポジウム

男女共同参画事業委員会 (旧 女性医師支援委員会)  
公益社団法人日本女医会 副会長 男女共同参画事業委員長  
澤口彰子



第1回からの軌跡をたどると、日本女医会では、平成19年から女性医師支援委員会としての活動を展開してきた。第1回から第3回までは、医学を志す女性たちに医師の現状、必要な法律の情報等を伝えてきた。第4回以降は、大学医学部・医科大学、病院、厚生労働省、内閣府、報道関係等の各分野での女性医師をはじめとする男女行動参画の取り組みを学ぶ有益な活動を行った。

第6回は「男性医師から言いたいこと」と題して、各分野からの意見を頂き、男女共同参画社会に向けての様々な可能性を実現することを目的とした。開催日時は平成24年10月14日(日)、新宿区四谷のルクホールで、山本續子男女共同参画事業委員による総合司会によって開始された。シンポジウム出席者による午前の部4題と午後の部3題の発表後、演者全員壇上に参列し、シンポジウム形式で討論をおこなった。

高久史磨氏は気性が強かったご母堂のこと、我慢、辛抱、忍耐で研究を成し遂げたジャネット・ラウリー博士(2012年日本国際賞受賞者:癌特異的分子を標的にした新しい治療薬の開発)、国立系医科大学の初めての女性医学部長桃井真里子氏(第5回医学を志す女性のためのキャリアシンポジウム発表者)などを挙げられ、当該者から窺われる共通した芯の強さについて述べられた。芯の強さは吉岡彌生東京女子医科大学創始者にもみられた。

一番若手医師である八木澤隆史氏は家庭においても男女共同参画社会を普通に貫いていると報告された。

福田敏雅氏は結婚する時、奥様の父君から医学博士の学位は必ず取得させてほしいと依頼されたが、これは女性医師のキャリアデザインには必要であり、親としての当然の依頼であると考えられると報告された。

久保田英氏は結婚されたとき、すでに奥様が医学博士号もっておられたが、基本的な価値観は同じであり、無理して相手に合わせないことを述べられた。

溝口秀昭氏は女性医師の教育に長らく携わってこられた経験から、能力では男女差がないこと、女子医学生をもっと増やすべきであることなどについて報告された。更にキャリアアップには碎身の努力、大学院修了、明るいこと、フットワークが軽いことなどが必要であり、泉二登志子氏(東京女子医科大学血液内科主任教授)を挙げられたが、奥様の溝口昌子氏(第41回日本女医会吉岡彌生賞受賞者、聖マリアンヌ医科大学皮膚科主任教授・現名誉教授)にも当てはまると考えられた。

宮田満氏は大学理学部時代にクラミドモナスの研究で性差に目覚め、ともに社会的認知を勝ち取ろうと思われたとのことで、女性医師が幸せにならなければいけなく、少子高齢化の時代、男女差は加齢によって無に近くなり、医療のイノベーションを担うのは女性医師で、国家再生戦略になるとの圧巻の報告をされた。

小森貴氏は日本医師会が女性医師のために現在何をしているか、また女性医師の問題は医師全体の問題であることを報告された。また日本医師会での女性理事が少ないことについては、トップリーダーの考え方が重要であるとの見解を示された。

全般的に女性医師に対する辛辣なご意見は発言されなかったが、医師たる者、男女を問わず、何事においても碎身の努力が必要であるとの結論に達したが、溝口秀昭氏が触れられた男女別高校の家庭科の授業の改善なども女性医師だけでなく、全ての男女共同参画に必要であると思われた。



# 国連と日本女医会との関わり

渉外部長 宮崎千恵



レセプション会場風景

平成24年11月13日（火）に、日本記者クラブにおいて、“UN Women 事務局長ミCHEル・バチエレさん来日歓迎レセプション”が開催されました。UN Women（国連女性機関）は、ジェンダーフリーと女性のエンパワーメントを推進することを目的に、ユニフェム基金などを設立し、世界各国に積極的に働き掛け、女性の支援をしている女性団体で、世界18ヶ国の色々な分野において、活発に活動しています。日本では、国内女性委員会として、（公社）日本女医会の他、日本女性法律家協会・内閣府、男女共同参画推進会議、看護協会など、20以上の多くの団体が加盟しており、私も（公社）日本女医会渉外部長として、このUN Women 活動に関わっております。この日はUN Women 事務局長ミCHEル・バチエレさんがニューヨークから来日され、その歓迎レセプションが開催されました。

こうした素晴らしい女性リーダーである方と同席出来たことに、女性医師の一人として感激いたしました。

レセプションは、有馬真喜子日本国内女性委員会理事長の開会の挨拶の後、外務省より少し遅れて駆けつけられたミCHEル・バチエレさんより「これまで世界の女性の活躍に向けて奔走してきましたが、日本でも良い成果がありました。今後も日本において、あらゆる分野での女性の登用30%以上の目標など、より一層の女性の活躍を応援いたします」と、短いながらも力強いメッセージがあり、日本女医会より私の他、前国際女医会議会長平敷淳子氏、前日本女医会理事山本蒔子氏なども参加し、乾杯の後に和やかな中に

も充実した約2時間の歓談の後、閉会となりました。なお、正にこの日にバチエレさんは、次期国連事務総長の任命が内定したとのアナウンスがありました。

## ミCHEル・バチエレ氏



ミCHEル・バチエレ氏は国連事務次長であり、2010年7月に国連総会にて設立されたUN Womenの初代事務局長に就任されました。

氏は出身地チリの保健大臣・国防大臣を歴任。保健大臣在任中は、自身の医師としての立場からも医療改革

を行う一方で、3人の子育て経験者として家庭医療に於ける対応の改善と迅速化の確保を目指し、プライマリケア施設に対する意識向上に努めました。また、国防大臣としては軍や警察部隊での女性の状況の改善を目的にジェンダー政策を導入。2006年には第34代チリ大統領に就任、その功績のひとつとして低所得家庭のための無料託児所の三倍増、国内3,500カ所への保育所の設立など、様々な構想の実現があげられます。

氏は女性の人権の擁護者として自身のキャリアを通じ、ジェンダーフリーと女性のエンパワーメントを提唱しており、UN Womenにおいては、世界、地域、国レベルでのジェンダーフリーと女性のエンパワーメントに向けた活動をリード、支援、統合する指導的役割を果たしておられます。

特集

# 私と仕事の両立



## 陽はまた昇る

宮城支部 小田泰子

長年、仕事と家庭の両立をしてきた。医局、子育て、介護、それぞれに汗と涙の物語があるが、今はみんな懐かしい。

インターンを終えて始まった医局での両立が一番苦しかった。結婚していたので家庭のことも気になる。大学病院と自宅は車で1時間近くかかる所にあった。夫の職場は大学に近かったので、朝夕送り迎えをしてくれた。これがまた負担だった。夫は文系の大学教師であったので、時間外勤務は殆どなく夕方は5時に勤務から解放される。私の時間にあわせて医局の外に車をつけてくれるのだが、私の事情は異なる。外来、手術、入院患者の診察、実験などを終えて先輩が医局に揃い始めるのは7時頃、それから医局は賑やかになる。それを待たずに一番の若輩が最初に医局を後にするのは後ろ髪を引かれる思いだった。医局での修業と研究は不可能と諦めて比較的勤務時間が短く自宅からも近い市中病院に移籍させて貰った。ここで臨床を身につけた。指導医には感謝しきれない。

これまでの経験から家庭と仕事を両立させるには家族の協力、家族と自分、特に子どもの健康、それに職住接近と、ある程度の楽天的思考が欠かせないと考えるが、幸いそのすべてに恵まれた。

子育てが一段落してから、若い頃に諦めた大学院に入り研究をしたいという願望が頭をもたげたが、50

歳を過ぎて他大学の医局で研究をさせて貰う勇氣はなく諦めていた。しかし、運命とは不思議なものである。文科省の方針で国立大学の教養部を解体して大学院大学を作り積極的に社会人入学を認める機運となった。東北大学で、たまたまその作業に関わっていた夫に「私も受験してみようかしら」と言ったのがきっかけで、新設された大学院大学・国際文化研究科に入学することになった。

いろいろな分野の講義を聴かれるのを楽しみに入学したのだが、開講初日に研究テーマを決め、その研究進捗状況を順次発表するよう申し渡された。大きな誤算だった。指導教官の手厚い指導と応援を得て、修士課程では「医師へボンとその時代」、博士課程では「人痘法受け入れ論争」をテーマに論文を書いた。平成10年、無事「国際文化博士」を頂いた。日本で国際文化研究科ができて最初の論文通過ということで「国際文化博士第一号」となった。

その後は論文提出に追われる事もなくなったが、調べものをしてそれを書く楽しみにとりつかれ、さらに2冊の本を書き上げた。

それから十数年、子どもたちはそれぞれ独立し、両親を見送り、間もなく夫を見送った。今は仕事と家庭の区別なく全部が自分の時間になった。

それぞれの人生、道は一つではないが人生は長く子育て期間は短い。この年齢になってもまだ続けられる仕事を持ったことを感謝している。今、もがいている人に「明けない夜はない」「必ずチャンスは訪れる」と伝えたい。

委員会  
報告

## 子育て支援委員会

十代の性と健康支援ネットワーク事業委員会  
(ゆいネット) 報告

副会長 対馬ルリ子

12月2日(日)、全教養護教員部から依頼され、中

部ブロック学習交流会の講師として、ゆいネット活動について発表してきましたのでご報告します。

場所は、長野県松本市美ヶ原温泉「ホテル翔峰」で、富山、石川、福井、長野、岐阜、愛知各県の養護教諭の先生方が集まり、総会と講演会が行われました。私は、ゆいネット代表として「十代の性の健康ネットワーク作り(通称ゆいネット)の活動を通じてわかったこと」というタイトルで講演をさせていただきました。

日本女医会が2001年ごろから思春期の健康を支援



する活動を継続して行っていること、それは国際女医会議の「女性と子供の健康を守る」方針と一致していること、ゆいネット活動は2008年から全国6か所のモデル地区で始められたが、地域で多組織、多分野の関係者を巻き込み、それぞれ独自の活動展開をしていること、定期的な連絡会、相談員養成講座、ワンストップセンター立ち上げなどNPO法人として発展しているもの、思春期研究会として発展継続しているものなどをお話しました。ゆいネットのおかげで既存の組織ではできなかった横のネットワークができ、これまで救えなかった症例も、追跡・救済できる可能性がでてきたことなどをお話しました。ゆいネットマニュアル（今回はこの冊子に興味をもっていただいて講演につながりました）作成の裏話、全国の思春期健康トラブルの現状などについても言及したので、活発な質疑応答が続き、ついには主だった先生方と昼食懇談会になり、熱い議論が続き、帰りがけ、「笹子トンネルで何か事故があったそうですよ」「まあ、大丈夫です、わたしは電車ですから」という会話がありました。笹子トンネルの崩落事故はあとで知り少々怖い思いをしました。

全国の学校現場で困っている養護教諭の先生方に、ぜひ地域の会員の先生方の支援をお願いします。

### 平成24年10月27日のゆいネット北海道 性暴力被害者支援センターSACRCHの設立 記念講演会を終えて

ゆいネット北海道 理事長 **堀本江美**

参加予定者は当初数十名だったのですが、札幌市内はもとより、帯広市や旭川市からのご参加もあり、当日は120名を超える皆さまがご来場下さり、盛大な講演会となりました。

会の始めには、名古屋から駆けつけていただいた日本女医会の会長、津田喬子先生、ゆいネットの生みの母である対馬ルリ子副会長からご祝辞をいただき、北海道環境生活部くらし安全局の浜田美智子局長が北海道知事高橋はるみ様のご祝辞を披露して下さい、続いて札幌市長の上田文雄さまからのお言葉をアナウンス学校の学生さんがご披露してくれました。さらには北海道医師会会長、長瀬清先生からの祝電披露もあり、実に多くの皆さまにご支援ご協力いただいていることに改めて感激致しました。

基調講演は、2010年4月に開設したSACHICO

（性暴力救援センター大阪 Sexual Assault Crisis Healing Intervention Center Osaka）の開設者である加藤治子先生この2年間のあゆみを直接伺う貴重な機会でした。先生は40年にわかり女性や子どもを支援してきたご経験から、様々な症例についてご治療ご検討をされており、その言葉のひとつひとつが私達の教科書です。さらにご苦勞を重ねている加藤先生ならではの、運営上の課題についてご助言もいただきました。

現在SACRACHは電話相談センターとして10月1日から解説し少しずつ相談が寄せられており、医師や弁護士、教員、社会福祉士の皆さまと症例検討会を重ね、何とか前に進んでおります。今後はセンター開設場所を何とか基幹病院の中に開設することが大きな目標です。多くの困っている女性や子どもに寄り添い活動をしていきたいと考えております。

ご来場いただきました皆さま、誠にありがとうございました。今後とも何卒ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

### 現場で使える 思春期の対応マニュアル ～ゆいネット事例からの提案～



日本女医会が2009年から3カ年にわたって行ってきた「子育て支援事業」の中で「十代の性と健康を支援するネットワーク作り委員会（通称ゆいネット）」の活動を通して作成された事例集です。

現場の医師・助産師・保健師をはじめ、児童相談員、養護教諭、警察担当者、保健所の担当者などが直面することの多い典型的な17の事例をあげ、どのような対応をするかについて書かれています。

2011年には中日新聞でも紹介され、多くの反響を頂きました。昨年12月に開催された全日本教職員組合養護教員部中部ブロックでの対馬副会長の講演も、この本がご縁となつてのご依頼でした。

## ゆいネット岐阜のご報告

岐阜支部 ゆいネット委員 廣瀬玲子

### ～多職種による“男子の性教育”に光をあてた研修とワークショップ～

平成24年10月6日(土)、岐阜県総合医療センターにおいて、(公社)日本女医会子育て支援委員会「十代の性の健康支援ネットワーク作り事業」として、第3回ゆいネット岐阜連絡協議会を開催することができました。津田喬子会長、対馬ルリ子副会長、宮崎千恵理事の他、ゆいネット委員の札幌から堀本江美先生、名古屋から斎藤洋子先生と、全国の日本女医会からの多くのご参加をいただき、大変心強く思いました。また、岐阜市教育長をはじめ岐阜県教育委員会や幼稚園・小学校・中学校・高校・大学の教員(養護教諭・保健体育・生徒指導等)、警察、犯罪被害者支援、見相、心理士、医師・助産師・保健師・大学生、保護者など総数74人の参加者があり、大変盛会で、満足度の高い会となりました。

基調講演には、村瀬幸浩先生(注)をお招きし、「男

子の性教育“男子の性に光を!”～男が変われば“関係”が変わる～というテーマの興味深いお話をお聴きし、大変触発された参加者たちの思いが、講演後のグループ討論(1グループ7～8人の多職種で男女取り合わせ)では思いきり花開きました。会の終了後の感想にもあった、“感動的で新鮮で有意義な時間”の雰囲気をお伝えできないのが残念です。村瀬先生のお話の内容の中から「男子が性に関する不安を、男子であるがゆえに相談することが容易でなく、相談する場所も不安を解消できる教育も存在しないままにおかれている現状、健康な人生を生きていくために大変大切な性の知識と理解」などや、ワークショップでは「特に私たち女性には、学ばないとわからない、男性側の視点」といった、多くの気づきがありました。また、参加者の感想の中には、「異性や異職種の違いの違う角度から考えることができ、盛り上がり楽しく交流できた。これらを自分の持ち場で生かしていけそうである」などといった内容も多く、今回のすばらしいゆいネット岐阜連絡協議会の開催実現は、日本女医会のおかげと心より感謝いたしております。

(注:日本思春期学会名誉会員・性の健康医学財団評議員・“人間と性”教育研究協議会幹事・一橋大学非常勤講師)



### ウイルスワクチン類

薬価基準:適用外

劇薬 | 処方せん医薬品(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

**ガードシル®** 水性懸濁筋注シリンジ  
**GARDASIL®** | 組換え沈降4価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン(酵母由来)

「効能・効果」、「用法・用量」、「効能・効果に関連する接種上の注意」、「用法・用量に関連する接種上の注意」、「接種不適当者を含む接種上の注意」など詳細については、製品添付文書をご参照ください。

**MSD**  
 製造販売元 [資料請求先]  
**MSD株式会社**  
 〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア  
<http://www.msd.co.jp/>



2012年4月作成 GRD12AD059-0417

## 東京都支部連合会 総会講演会



### 「チェルノブイリからの警告 ～そこには日本の未来がある」 を催して

関西学院大学災害復興制度研究所研究員 **青木正美**

私が東京都支部の学術委員を拝命してから、総会の講演会や役員会の勉強会は、私のライフワークである災害復興学に関する演目をお聞き頂いている。殊に、東日本大震災以降は震災に於ける女性医師の役割に関しての企画を心がけている。

2012年11月10日ホテルニューオータニで行われた東京都支部の総会では、日本女医会佐賀支部の太田記代子先生と私の知人・脇ゆうりかさんと私の3人で、原発と内部被曝のシンポジウムを行うことにした。

太田先生は、昨年まで2期佐賀県議員をされておられ、日本初の玄海原発3号機のプルサーマル化に地元県議としてずっと反対を唱えてこられた。何年も前から電話ではしょっちゅうお話をしていたが、実は一度もお会いしたことがなかったこの大先輩に、ぜひともプルサーマルのお話をお聞きしたくて、シンポジストとしてご登壇頂いた。

もう一人、脇ゆうりかさんは東京都中央区銀座地域の災害&防災と一緒に考えてきた古くからの仲間である。今回の震災では、その脇さんの地元・千葉県松戸市が関東のホットスポットになってしまい、松戸・柏・流山などのママたちで「こども東葛ネット」を作って活動している。昨夏には茨城の常総生協と一っしょに千葉・茨城県の大規模な土壌の汚染調査を行ったグループの副代表をしている。それでぜひとも土壌汚染の話をしてもらいたかった。

脇さんたちが「東葛地域は線量が高い。あの日、子どもを無用に被曝させてしまった」と声を上げて活動しはじめた時、この国の行政や政治家たちをはじめ、一部のマスコミからも「放射能に過剰反応してい

る母親たち」というレッテルが貼られてしまい、色々な分断を経験して苦しい思いをしてきた。けれども今は、非常に勉強をして日々着々と進化を遂げているママたちのトップランナーだ。

初めに太田先生からプルサーマルの成り立ちと、これがいかに危険な原子炉であるのか問題提起された。ウランを燃やすために作られた原子炉でプルトニウムを燃やすのは、例えてみれば「石油ストーブでガソリンを燃やすようなもの」「プルトニウムはウランの250倍爆発しやすい物質」「ウランとプルトニウムの混合比が英仏は3%なのに対して日本では6%であり、爆発のし易さは英仏の比ではない」「福島第一原発の3号機もプルサーマルのMOX燃料であったので、あれは水素爆発ではなく核爆発をしているはずである」などなど大変興味深い話をくださった。

脇ゆうりかさんには、東葛地域にどれだけの汚染がされたのか、千葉・茨城県を1キロメートルメッシュに区切り、土壌のサンプリングを行った結果を話して頂いた。これだけ大規模な土壌検査をやった民間団体は皆無である。今後は土壌検査のメッシュを狭めて多地点でのサンプリングを目指し、福島県へと繋がっていきたいと考えている。そうしてどうすれば子どもへの内部被曝を少なくできるのかということを熱く語ってもらった。

シンポジウムの後の晚餐の時間では美味しい食事を頂きながら放射線障害のフリーディスカッションが続いた。私は長らく東京都支部で学術の仕事をしており、年間3～4回の勉強会を企画してきたが、これほどまでに真剣な意見やご自身の思いを語って頂いた事は、かつて一度もないことだった。

現役を退かれたドクターの中には「今の自分には社会に繋がるチャンネルがなくなってしまった、それが大変無念であり焦りを覚える」という発言まで頂いた。

たった今の政治状況はもちろんのこと、「この嘘で塗り固められた日本は、あの戦争の大本営発表と何ら変わらない。違ふとすれば私たちがこうして危機意識を共有できるということだけだ」「もはや原発に賛成か反対かなどという瑣末な問題ではなく、この国の存亡の問題だということしっかりと広めなければならぬと気がついた」「こんな有意義な議論を、今日のこの場だけではなく大きく広げるためには何をすればいいのか、それを考えていかなくては」という話が、晚餐のテーブルのあちらこちらから上がったのだった。

子どもを産み育て、生涯で数えきれないほどの患者さんと寄り添ってきた女性医師だからこそ、たった

今この国で密かに進行している危機的な状況に関して、決して見過ごす訳にはいかないとされたに違いなかった。あのチェルノブイリでも、まず立ち上がって声を出し「事なかれ主義の政府」や「隠蔽をしようとする男性医師」に喰ってかかって、子どもたちの命の危機を暴露したのも、旧ソ連の名もない女性医師たちであったことを思い出し、私は胸がいっぱいになった。

私は現在、関西学院大学災害復興制度研究所で2012年6月に成立した「原発事故子ども・被災者支援法」の具体的な法案作りに取り組んでいる。平等かつ必要十分な検査と医療給付が受けられるようにするためにはどうすれば良いのか、2013年春をメドに法案策定部会で検討しているところである。

原発事故による放射能汚染、殊に内部被曝との闘いは未だ緒に就いたばかりである。私たち女性医師に託された責任と役割は限りなく大きく、この国の未来を決するものだと私は固く信じている。



## 未来の命のために 安全エネルギーに

佐賀支部 太田記代子

昭和20年、玉音放送を天津の国民学校の校庭で聞いて以来、「大人は何故、戦争したの」と不思議でした。日本が米国と戦うのは、私が朝青龍関と相撲をとるようなもの。危険極まる。国民の殆どが戦争を望んでいなかったのに始まってしまった由。しかし今、原発は米国と戦うよりもっと危険を孕んでいるのではないのでしょうか。

原爆被爆者検診を保健所医として30年余り担当し、「人類は核と共存できない。」という言葉を経度も聞かされ、悲惨な体験談に胸つまりました。8月6日、9日は人類が忘れてはならない日だと思いますし、日本の医師は「地球環境を放射能汚染から守るべし」と発信する使命を帯びていると思えてなりません。医療分野で使われる放射能のみは命を守るという目的のために許されていて、それ故に厳しく管理されています。

佐賀県には玄海原発が4機あり1号機は脆性遷移温度が98度と上昇していて、日本一危ないと東大の井野博満名誉教授が平成23年7月2日号の週刊誌に発表され鳥肌が立ちました。原発圧力容器の内部は約150気圧という高圧なので、98度より低い温度

の水が入るとヒビが入り大爆発をおこし九州から大阪までは壊滅と記されています。一方3号機は118万KW出力のプルサーマルでプルトニウム富化度（負荷度）6.1%と世界一危険とされています。この玄海原発の温排水は九州一の大河・筑後川2本分、周囲の温水より7度高い温度で玄海に注がれ、この温排水にトリチウム等の放射能物質が微量とは言え含まれている由です。トリチウムは簡単に言うと放射能を帯びた水素なわけで、数十年昔に物理を学んだ者としても吃驚で心配です。この温排水は吉岡彌生先生の御夫君、荒太先生が若き日医学を志し、御父上の反対でお母様と相談、こっそり東京に向かうべく飛び込んだ高申の海に繋がる美海に排出されます。この海を安全で豊かな海として残す債務が私達大人にはありましよう。この3号機プルサーマルが大きな事故の場合、日本全体が汚染されると警告されています。県議としてプルサーマルに2年余反対し続けましたが、平成22年12月2日に県民の大反対の中、商業運転が開始されました。県議会で知事の答弁は「安全」の一点張り。しかし丁度、1年と1週間後の平成23年12月9日にヨウ素漏れ事故で停止され「定期点検」と繕って発表されました。

有名な平井憲夫氏の遺言のようなHPは恐ろしい記載で「目から鱗」でした。「プルサーマルとは石油ストーブでガソリンを燃やすような事」と記されています。京大・原子炉実験所の小出裕章助教授や肥田舜太郎医師のお話やご本『内部被曝の脅威』（ちくま新書）を読みペトカウ効果や発癌性、催奇性、原爆ぶらぶら病、半減期の長さ等を知り、女医として変える努力をすべきと心急ぎ、同時にゲーテのファウストの一節を思いおこしました。「永遠に女性的なるもの、我等を引き上げて昇らしむ」。IQが200とされる賢い男性のゲーテが女性的なるものに期待しているのですから応えざるを得ないと思われませんか。

最後に湯川秀樹博士の名言を引用させていただきます。「原子力の脅威から人類が自分を守るという目的は、他のどの目的よりも上位に置かるべき」とあります。人類の未来のために安全な代替エネルギーを、と心から祈ります。





## 子どもたちのために…… 後悔から始まった千葉北西 部・茨城の母親達の活動

こども東葛ネット 脇ゆうりか

2011年3月15日、千葉県柏市で放射線測定器の警報音が鳴り響き、茨城の母親は東海原発監視用の日立市のモニタリングポストが通常値の100倍の4  $\mu$  Sv/hを示したのを見て、教育委員会に連絡しましたが情報は活かされず、放射能が飛ぶ中、子どもを学校へ行かせてしまいました。放射性雲は関東を覆い、21日の雨が土壤を汚染しました。行政に問い合わせても問題ないと一点張り。北千葉浄水場は22日に採取した水から大人の暫定規制値を越える336Bqの放射性ヨウ素を検出しましたが発表は29日でした。母親達は浴びる必要のない放射能を子どもに浴びさせてしまったと後悔し、測定器を購入し、測定を開始。結果は空間1mで0.3  $\mu$  Sv/h以上、通学路で1.5  $\mu$  Sv/hという箇所もありました。市に除染の要請をしながらも市民が除染を開始。市による除染が始まったのは半年後でした。

茨城・千葉の母親達は県境を越えて繋がり、子どもの生活圏で汚染を把握するため、2012年1月から常総生活協同組合と協力して土壤汚染調査を実施。市内を1kmメッシュに区切り、高濃度ではない土を1kgずつ、茨城・千葉北西部15市町で1,532区画から1,000ヵ所以上を採取し初期汚染状況をまとめまし

た。日本では「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」で4万Bq/m<sup>2</sup>以上を放射線管理区域としていますが、10市町で平均値が4万Bq/m<sup>2</sup>を越え、松戸では殆どが6～8万Bq/m<sup>2</sup>でした。茨城や千葉北西部は福島県いわき市と同程度の汚染地帯ですが健康診断は実施されていません。子ども達が生涯健康に暮らせるよう、被ばくを少しでも低減させ、放射能の影響がないか長期で監視、早期発見・早期治療していくことを自治体に要望し、母親達は自費で子どもの検査を始めています。何もせず不安は解消されないからです。

昨年11月26日、国連人権理事会特別報告で日本政府の発表データが実際の放射線量レベルを反映していないために住民が自ら放射線モニタリング調査を行っていること、チェルノブイリ事故の限られた教訓しか活用せず低線量放射線地域でさえも癌その他の疾患の可能性のある事を指摘する疫学研究を無視している事、健康調査が福島県の人に限られ、調査範囲が狭い点を指摘しました。日本政府は健康を享受する権利に照らし、長期内部被ばく調査をし、住民の測定も含め全ての有効な独立データを取り入れて公にするなど適切な処置をとるべきと表明しました。

茨城・千葉の母親達は現在、「原発事故子ども・被災者支援法」の支援対象地域の適用と健康サーベランスの実現を要望し、関係省庁と対話交渉をしています。政府のデータ収集のための疫学調査ではなく、子ども個々の感受性を受け止めた診察を希望します。そして、生涯にわたり、子ども達に寄り添ってくださるお医者様と繋がりたいと思っています。

### 第6回軽井沢セミナー

庶務担当理事 馬場安紀子

平成24年10月27日、第6回軽井沢セミナーを開催いたしました。講演は、御代田のグランディ軽井沢ゴルフクラブ「コンパルム」で午後6時より行われました。

講演会の参加者は29名（会員13名、一般16名）。小関温子副会長が座長を務め、銀座上符メディカルクリニック院長・上符正志先生より「トータルアンチエイジングで人生をもっとハッピーに」とのご講演を拝聴いたしました。内容は、①老化の原因 ②アンチエイジング検査と治療 ③遅延型フードアレルギーについて最新の知見と医療の実際を、動画映像を交えてわかりやすく解説していただきました。講演会

の後、レストランにて会食、とても美味しいイタリアンのコース料理とワインを堪能しました。その後、宿泊者はバスで追分のホテルグランドエクシブ軽井沢に移動し、散会となりました。



翌日は、あいにくの雨模様にもめげず、5名がゴルフに参加しました。

毎年秋の紅葉の美しい軽井沢で、このような学習と懇親の機会がもたれる事は幸せです。避暑客で賑

わう夏とは異なる、冷気の張りつめた深閑とした秋の軽井沢での集いに、次回は是非多くの会員の先生のご参加をお待ちしております。

## 京都支部の集い

京都支部長 石川知子

2012年3月4日(日)、京都市役所の向かいのホテルオークラで「京都支部の集い」を開きました。31名の参加で、3名の若い京大女子医学生、9名のはじめて参加して頂いた先生方、5名の新たに入会して頂いた先生とご一緒にさせて頂くことが出来ました。

京都大学臨床神経学の高橋良輔教授に「パーキンソン病の最近の研究と診断の進歩」と題して、ご講演を頂きました。たくさんの先生から次ぎ次ぎと質問があり、日々の診療に役立つようにわかりやすく説明していただきました。そのあと、全員で記念撮影。

そして懇親会場へ。水野先生の司会のもと、石崎先生の乾杯のご発声で始まりました。心ときめくお囃子の中を桂米朝一門の桂塩鯛が登場。身近で聞く、汗をかきながらの迫力ある生の落語の醍醐味に、思



わず引き込まれてしまいました。「有喜屋」のそばの実演と、旬の竹の子、とっても立派な海老の料理など。女性のために特別に作って頂いたデザートの数々。

福引は1等、2等、3等と京都ならではの手作りお菓子。全員には名店の香りゆたかな「ちりめん山椒」をたずさえて、来春の再会を約束して別れました。

佇めば 声明の楽 冬の滝 田部みどり





選択的DPP-4阻害薬 薬価基準収載

# エクア錠50mg

(処方せん医薬品) (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

**Equa** ビルダグリブチン錠

効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等については、製品添付文書をご参照ください。

---

製造販売 〈資料請求先〉

**ノバルティス ファーマ株式会社**

東京都港区西麻布4-17-30 〒106-8618

NOVARTIS DIRECT

0120-003-293

受付時間：月～金 9:00～17:30  
(祝祭日及び当社休日を除く)

www.novartis.co.jp

販売提携 **サノフィ株式会社**

〒163-1488

東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

コールセンター くすり相談室

**0120-109-905**

受付時間：月～金 9:00～17:00

## 第29回国際女医会

(Medical Women's International Association: MWIA)

### 会議・学術集会のご案内

2013年の7月31日(水)～8月3日(土)に、韓国ソウルにて第29回国際女医会(MWIA)会議・学術集会が開催されます。MWIAでは、3年に一度、全体会議と学術集会が行われ、2004年に東京で開催されたことは皆様のご記憶にも新しいことと思います。アフリカ、アジア、ヨーロッパ、北米、南米と世界各国からの女性医師が一堂に集います。日韓情勢の緊張する昨今ですが、政治は政治、医学は医学、そして国際交流は草の根外交からと、是非、皆様の多数のご参加をお待ち申し上げます。

また、この会議から、MWIA 西太平洋地域の Vice President に会員の山本繡子理事が就任されます。会議へのご参加にて皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

学術集会の発表については、ポスター発表、講演発表の両方があります。抄録の受付は2013年3月31日までです。こちらも多くのご応募をよろしくお願い申し上げます。詳細は、ホームページ <http://mwiaseoul2013.org> をご参照ください。

また、追って日本語での参加申し込み、航空券、宿泊の手配、オプションツアーなどをご案内申し上げます。日本女医会会員の皆様と、国際女医会会員の皆様と一緒にソウルの夏を満喫しませんか？

(ナショナルコーディネータ 矢口有乃)

開催場所：梨花女子大学  
(Ewha Womans University) 韓国ソウル

#### 主な日程

7月31日(水)	18:00～	ウエルカムパーティ
8月1日(木)	10:00～	開会式
	11:00～	基調講演
	13:00～	本会議
	19:00～	韓国女医会主催 ディナーパーティ
2日(金)	19:00～	ガラディナーパーティ
3日(土)	15:30～	閉会式

これらの日程の間に学術発表が行われます。



選択的DPP-4阻害剤 - 糖尿病用剤 - 薬価基準収載

**GLACTIV®** **錠** 25mg 50mg 100mg

シタグリプチンリン酸塩水和物錠 GLACTIV

処方せん医薬品<sup>※</sup> 注) 医師等の処方せんにより使用すること

資料請求先 **小野薬品工業株式会社**  
〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、詳細は製品添付文書をご参照ください。

110901

公益社団法人日本女医会  
(((理事会議事録)))

平成 24 年度  
第 2 回理事会議事録

1. 日時及び場所

日 時 平成 24 年 9 月 15 日 (土)  
午後 3 時～6 時  
場 所 公益社団法人日本女医会  
会議室

2. 出欠者

出席者  
理事  
津田喬子、小関温子、澤口彰子、  
対馬ルリ子、川村富美子、齊藤恵子、  
諏訪美智子、高原照美、田辺晶代、  
塚田篤子、馬場安紀子、濱田啓子、  
藤川眞理子、前田佳子、宮崎千恵、  
矢口有乃、横須賀麗子、吉馴茂子  
監 事 松井ひろみ、山崎トヨ  
欠席者  
理 事  
大谷智子、古賀詔子、宮本治子、  
中田恵久子、山本繡子

※ 開会に先立ち津田会長からの挨拶があ  
った。

3. 議題  
審議事項

- 1) 支部名称許諾手続きについて (津田会長)
  - ・各支部宛てに、支部名称許諾申請書を郵送、10 月中に返送頂くよう通知することを承認した。
- 2) 第 58 回定時総会について (川村理事)
  - ・第 58 回定時総会 (案) に基づき川村理事より、宮城支部での進捗状況の報告があり、承認された。
  - ・5/18 (土) の主なスケジュール、招待者 (案)、アトラクション
  - ・5/19 (日) の主なスケジュール
  - ・第 58 回定時総会実行委員会からの提案
  - ・ランチョンセミナーは武田薬品の共催で、乳がん関連について秋田県の女性医師を講師に。
  - ・公開講演会は、石巻日赤病院の石井正先生による講演。共催は募集中。
  - ・両日ともに託児付とする。
- 3) 寄付金制度制定について (吉馴理事)
  - ・事業部から寄付金額につきバッジの

- 進呈の提案があった。
  - ・額により金銀銅のバッジを進呈することが承認され、事業部主体進めることを決定した。発注の時期については再度検討することとした。
  - ・相続についての寄付に関するなんらかの制度を作ることを承認し、継続的に審議することを決定した。
- 4) 7/21 開催部長会での審議について (澤口副会長)
    - ・部長会の議事録に基づき澤口副会長より報告があり、内容が承認された。
  - 5) 日本女医会誌 212 号に掲載する各種募集について (田辺理事)
    - ・リレーエッセイ、会員以外の方への執筆依頼、女医会誌のあり方等を広報部内で検討する。
    - ・会員以外の配布先を増やす。
  - 6) 年金未返還分の対応について (濱田理事)
    - ・川浪祥子先生に対し、会長名で返還受諾のお願い状をお出しする。受諾されなかった場合は、弁護士に解決を依頼することも視野に入れる。処理は会長に一任する。
  - 7) 第 2 回提言論文募集について (高原理事)
    - ・文字数、締切日について、第 1 回の反省を踏まえて以下の通りとする。  
1200 字以内 平成 25 年 2 月 25 日  
送信分有効
  - 8) 北海道支部からの市民公開講座について (津田会長)
    - ・北海道女性医師の会主催、日本女医会共催の「僕たちの未来予想図 ～医師のライフワークバランス～」(仮題) について 5 万円を補助金として支出することを承認した。
  - 9) ゆいネット活動計画案と予算案 (対馬副会長)
    - ・対馬副会長より、平成 24 年度の事業計画、並びに予算案の説明があり承認された。(資料参照)
    - ・委員会名の確認 → 「十代の性と健康支援ネットワーク事業」
  - 10) 事務局員の補強について (津田会長)
    - ・110 周年記念式典・祝賀会までの臨時パート職員の雇用について承認された。
  - 11) 日本アラブ女性交流の件
    - ・第 27 回日本アラブ女性交流に関する会合への出席者を選任した。
    - ・10/21 レセプションには小関副会長、

- 澤口副会長が出席 (参加費用は自己負担とする)
  - ・10/22 外務省主催歓迎夕食会には津田会長、澤口副会長が出席 (参加費用は自己負担とする)
- 12) その他
    - (1) 長寿社会福祉委員会の委員決定および会員への依頼について (対馬副会長)
      - ・欠席の山本理事からの依頼により、下記の通り委員を選定した。澤口副会長 川村理事 斎藤理事 濱田理事 松井監事
    - (2) 雑誌「すこやか」(風土社刊) の執筆窓口変更について (対馬副会長)
      - ・欠席の山本理事からの依頼により、風土社への窓口担当に田辺理事を選任した。
    - (3) 交際費に関する内規について (濱田理事)
      - ・案件については、長岡公認会計士と会計部で審議することを承認した。
    - (4) 名古屋でのゆいネットについて
      - ・11/18 に行われる名古屋でのゆいネットについては助成金を拠出しないことを承認。愛知思春期研究会から申請の助成金申請は却下した。

継続審議事項

- 1) 公益社団法人日本女医会規程について (津田会長)
  - ・部長会において承認された箇所を審議した結果、公益社団法人日本女医会規程集 (吉岡弥生賞を除く) を承認した。
  - ・評議員会については議決権はないが、支部からの声を女医会の活動に反映させるための団体として存続させる。名称については、今後も検討する。
  - ・第 3 条 2 項「部会の長は部長とする」に訂正。
  - ・「委員長」→「部長」に訂正。
- 2) 創立 110 周年ならびに公益社団法人認定記念式典・祝賀会について
  - (1) 第 1 回準備委員会報告 (津田会長)
    - ・津田会長より日程の確認、進捗の報告があった。
  - (2) 過去 5 年間の叙勲会員の公表と御祝い (吉馴理事)
- 3) 第 6 回キャリア・シンポジウムについて (澤口副会長)
  - ・10/14 開催のキャリア・シンポジウムの演者について承認した。



- 4) 事業名の確認(会誌211号の記載について)男女共同参画事業委員長寿社会福祉委員会
- 5) 東日本大震災支援 (矢口理事)  
・矢口理事より『どうしよう子どもの救急』400部を岩手県陸前高田市立保育園に追加贈呈した旨報告があり、お礼状を回覧した。

#### 報告事項

##### 1) 各部、NC報告

- (1) 庶務部報告 軽井沢セミナーについてのお知らせと進捗について (川村理事)
- (2) 会計部報告 (塚田理事)
- (3) 広報部報告 会誌211号・212号について報告があった。(諏訪理事)

##### 2) 各委員会報告

- (1) MsACT委員会英語セミナー開催についての報告があった。(藤川理事)

### 平成24年度 第3回理事会議事録

#### 1. 日時・場所

日時 平成24年11月17日(土)  
午後3時～午後6時  
場所 公益社団法人日本女医会  
会議室

#### 2. 出欠者

- 1) 出席者(19名)

##### 理事

津田喬子、小関温子、澤口彰子、大谷智子、古賀詔子、諏訪美智子、田辺晶代、塚田篤子、中田恵久子、馬場安紀子、藤川真理、前田佳子、宮崎千恵、矢口有乃、山本縯子、横須賀麗子、吉馴茂子

##### 監事

松井ひろみ、山崎トヨ

- 2) 欠席者(6名)

##### 理事

対馬ルリ子、川村富美子、斎藤恵子、高原照美、濱田啓子、宮本治子

※開会に先立ち津田会長より挨拶があった。

#### 3. 議題

##### 審議事項

1. 第58回定時総会について(古賀理事)
- 1) 公開講演会講師の石井正先生の講演料について (資料1) <承認>

- ・古賀理事より、宮城支部での第58回定時総会準備の進捗状況の説明があり、公開講演会の講師として東北大病院地域医療教育支援部の石井正教授に依頼した旨の報告があった。
- ・石井教授の講演料10万円と交通費を日本女医会からお出しすること承認した。

##### 2) 見積もりについて(資料2) <承認>

- ・資料に基づき総会、ランチョンセミナー、公開講演会の予算について説明があり承認された。
- ・会務報告、パンフレット、次第の作成について確認があり、会務報告と総会の次第は本部で作成し会誌214号に封入して発送、懇親会に関するものは支部で作成することを確認。

##### 2. 吉岡弥生賞規程について

- (津田会長) <承認>
- ・第5条を以下のように改正することを承認。
- 「国内外の学会等での多数の特別講演あるいは招聘講演、国際貢献等に対する受賞、論文数も含めた国内外の医学的貢献、また国内外の医療活動、男女共同参画事業・女性医師育成等における諸業績等を審査対象とする」
- ・候補者履歴書に「以上相違ありません」の一文と署名捺印欄を加えることを承認。

##### 3. 外部委員の選定について

- (津田会長) <承認>
- ・荻野吟子賞、日本女医会吉岡弥生賞の選考委員会に外部委員を迎える件につき、幹部会を代表して津田会長より東京女子医科大学名誉教授の溝口秀昭先生の推薦があり、承諾のお願いをする旨承認された。

##### 4. 役員旅費規程について(資料3)

- (吉馴理事) <審議>
- ・吉馴理事より、現在施行されている役員旅費規程に対し「会合費」に関する条項を加え「役員旅費及び諸経費に関する規程」とする提案があり、論議の結果継続審議事項となった。
- ・事務局より「会議費」と「渉外費」について内規を作成するよう長岡公認会計士より指示があったとの報告があり、こちらも継続審議事項となった。

##### 5. 長寿社会福祉委員会から

- (山本理事) <承認>
- ・山本理事より、平成25年2月9日に

講演会を予定している旨説明があり、承認された。内容は「終末期医療について考える」とする。会場は未定。

##### 6. 「すこやか」窓口担当変更について(津田会長) <承認>

- ・津田会長より9月理事会において「すこやか」の窓口を田辺理事とすることを承認したが、その後同窓口は事業部担当であることが山本理事より指摘されたため、再度検討の上高原理事を候補としたい旨提案があり、高原理事を窓口とすることが承認された。

##### 7. 第1回理事会(6月)、第2回理事会(9月)議事録承認(津田会長) <未承認>

- ・時間切れのため、承認は次回理事会に持ち越された。

##### 8. 理事会開催日程について

- (津田会長) <承認>
- ・津田会長より、今年度の理事会に以下の日程を加えたい旨提案があり承認された。開催時間は午後3時から午後5時までとし、部会は理事会前の午後2時から午後3時まで行う。追加日 12月15日(土) 2月16日(土)

##### 9. 文書番号について(資料5)

- (津田会長) <承認>
- ・事務局から提案された例に従い、公式文書に文書番号を記入することを承認した。

##### 10. その他

- 1) 新年会のメニュー及び会費について (庶務部) <承認>

- ・午後2時～午後4時を理事会、午後4時からを会食とすることを確認。メニューは和食とすることを決定した。

##### 2) アルバイト職員の賃金について

- (小関副会長) <承認>
- ・小関副会長よりアルバイト職員の賃金について、謝金規程第4条のアルバイト賃金の「1時間あたり1,000円」を以下の文言に差し替えることにつき提案があり、承認された。
- 「アルバイト賃金はその都度検討し、会長決済として決定する」
- ・なお今後ハローワークに掲出する募集に関しては、賃金は900円以上とする。

- 3) 会議伺い書を承認 <承認>

- 4) 職員賞与、及び雇用契約書について  
職員賞与は、会議終了前に役員のみで話し合いを行うことに決定。

公益社団法人移行後の雇用契約書については、執行部、および会計部で今後検討、作成することを承認した。

5) 藤川理事・矢口理事の男女共同参画事業委員会への参加について

<承認>

藤川理事・矢口理事の男女共同参画事業委員会への参加が承認された。

**継続審議事項**

1. 創立110周年ならびに公益社団法人認定記念式典・祝賀会について

(津田会長)

1) 公開講演会講師 <承認>

神戸化学研究所網膜再生医療研究チームリーダーの高橋政代先生に依頼することを承認。

2) アトラクション <承認>

鹿児島大学医学部米澤傑教授にアプローチすることを承認。

3) お土産品 <承認>

ミキモトのトレーを承認。裏に入れる文言は、準備委員会に一任することを決定した。

4) ご皇室

津田会長より、引き続き検討中の旨報告があった。

2. 寄附金制度制定について(資料6)  
(吉馴理事) <承認>

1) 寄附金パンフレットについて

寄附を呼び掛けるパンフレットを会誌発送時に毎回封入すること、またHPに掲載することを承認した。

2) 寄附金申込書について <承認>

一般の会員向けの寄附金申込書については、長岡公認会計士に相談上、文責は事業部とし、1月25日発送予定の日本女医会誌213号に封入することを決定した。

3. 会議費(会合費)に関する内規について (塚田理事) <承認>

塚田理事の提案により「会議及び渉外費に関する内規」(案)、および「会議伺い書」が回覧され、承認された。

4. 評議員会の名称について

津田会長より、会員への門戸を広くす

るために「支部・本部連絡会」とすることに決定し、各支部に追って連絡をすることを承認した。 <承認>

※津田会長より、現在以下の企業より寄付があったことが報告された。

アスカ:5万円 ジャパンワクチン:200万円 MSD:300万円

**報告事項**

1. 各部、NC 報告

1) 庶務部報告 (資料7)(馬場理事)  
・軽井沢セミナー(10/27)について馬場理事より報告があった。  
・馬場理事より、今後の同好会のマネージメントについては、今後の課題とすることが決決定した。

2) 会計部報告 (資料8)(横須賀理事)  
・塚田理事より会計資料に基づき9月、10月の会計報告があり、承認された。

3) 広報部報告 (山本理事)  
・日本女医会誌213号についての報告があった。

4) 渉外部報告 (宮崎理事)  
・第67回国連総会政府代表顧問「鷲見八重子氏歓送会」出席報告

・日本アラブ女性交流公開フォーラム・レセプションへの参加報告

・UN Women 事務局長ミシェル・バチエルさん来日歓迎レセプションについて報告があった。

5) 学術部報告 (前田理事)  
・HP「学術研究助成受賞者の軌跡」に小川葉子先生(第29回受賞)、池田啓子先生(第30回受賞)の報告を掲載したとの報告があった。

・HP「新しい治療とトピックス」については、大谷理事と前田理事が執筆の予定であることが報告された。

2. 各委員会報告

1) 十代の性と健康支援ネットワーク事業委員会 (津田会長)

・H25.3/17に行われる予定のゆいネット報告会について参加の呼びかけがあ

った。

2) MsACT 委員会 (藤川理事)

・HPのトップページか、ら学生向け入会ページへ直接飛べるように工夫がほしいとの意見があり、ルールに法り広報部へ養成するよう津田会長から指示があった。

3) 男女共同参画事業委員会(澤口副会長)

・10月14日に行われた第6回キャリア・シンポジウムについて、澤口副会長より報告があり、今後の集客などにつきMsACTとの連携を進めるよう提言があった。

3. その他

1) 東京都支部連合会総会出席 (澤口副会長)

・澤口副会長より東京都支部連合会総会出席の報告があった。

2) 事務局の臨時パート職員の採用について (小関副会長)

・募集の進捗報告と今後も継続して募集を行うこと、また募集の条件を週3回とし、自給を950円にすることが報告された。

3) 大学病院医療情報ネットワーク(UMIN) 研究センターの情報の更新について (津田会長)

・公益社団法人移行に伴い、学術研究助成募集の要項を開示した旨の報告があった。



**会員動静 (2012年12月19日現在・敬称略)**

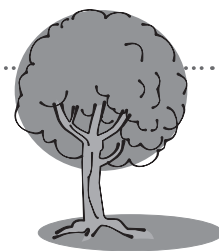
入会	氏名	支部	卒年
	新谷 朋子	北海道	昭62
	藤根 美穂	北海道	平9
	長崎 実佳	足立	平19
	大屋 純子	東女内	平14
	加藤 ゆか	東女内	平21
	中山 佳子	長野	平4
	野々下 晃子	福岡	平8
	仁井田 りち	沖縄	昭61

学生	氏名	氏名	氏名
	岩田 彩香	東京大	
	黒木 崇子	佐賀大	
	富保 紗希	獨協医科大	
	松本 惇奈	東京医科歯科大	

物故	氏名	支部	卒年
	鶴原 ケイ	栃木	昭31
	原田美智子	神奈川	昭39
	中村 西子	世田谷	昭19
	大河原キヨ	文京	昭16
	安藤 暉子	長野	昭12
	中島 芳代	高知	昭19

退会 7名

## 日本女医会からのお知らせ



### 「創立 110 周年ならびに公益社団法人認定記念式典・祝賀会」

以下のスケジュールを予定しております。詳細は、追ってお知らせ申し上げます。

日 時：平成 25 年 3 月 24 日（日）

会 場：京王プラザホテル（東京都新宿区西新宿 2-2-1）

午後 1 時 30 分 記念式典

午後 3 時 00 分 公開講演会

高橋政代先生（理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター 網膜再生医療研究開発プロジェクト・プロジェクトリーダー）

午後 4 時 45 分 祝賀会

### 長寿社会福祉事業講演会「高齢者医療を考える～急性期から在宅医療まで～」

日 時：平成 25 年 2 月 9 日（土）

会 場：主婦会館プラザエフ（東京都千代田区六番町 15 番地）

午後 1 時 ～ 午後 4 時

### 十代の性の健康支援ネットワーク事業「ゆいネット報告会」

日 時：平成 25 年 3 月 17 日（日）

会 場：主婦会館プラザエフ（東京都千代田区六番町 15 番地）

午前 10 時 ～ 午後 4 時（予定）

詳細は追ってお知らせ致します。

## 公益社団法人日本女医会 第58回定時総会のお知らせ

新しい年を迎え、先生方にはご清祥にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、本年の第 58 回定時総会は仙台市において、下記のスケジュールで開催の予定です。

皆様お誘い合わせの上、ぜひご出席を賜りますようお願い申し上げます。

<会場> 仙台国際ホテル 〒980-0021 仙台市青葉区中央 4-6-1

平成 25 年 5 月 18 日（土）宮城県女医会主催	平成 25 年 5 月 19 日（日）
13:00～17:00 エクスカーション： 被災地視察（石巻地区／定員 45 名）	9:30～10:30 支部・本部連絡会
18:30～21:00 懇親会	10:45～12:30 第 58 回定時総会 写真撮影
	12:45～13:45 ランチョンセミナー
	14:00～15:40 公開講演会
	15:40～16:00 閉会

※両日ともに託児の用意がございます。

### ● 寄附者一覧（敬称略。H 25・1・10 現在） ●

以下のとおりお知らせいたします。ご協力誠にありがとうございました。

（平成24年8月1日～平成25年1月15日までの寄附金総額：8,567,455円）

MSD株式会社

ジャパンワクチン株式会社

あすか製薬株式会社

津田 喬子（愛知県）	小関 温子（神奈川）	澤口 彰子（東女内）	対馬ルリ子（中央）
川村富美子（足立）	古賀 詔子（宮城）	高原 照美（富山）	田辺 晶代（東女内）
中田恵久子（埼玉）	濱田 啓子（北海道）	藤川眞理子（都下西）	前田 佳子（神奈川）
宮崎 千恵（岐阜）	矢口 有乃（東女内）	山本 纈子（愛知県）	横須賀麗子（佐賀）
吉馴 茂子（大阪9）	松井ひろみ（目黒）	山崎 トヨ（栃木）	澤口 聡子（東女内）

## 第2回提言論文募集のご案内

公許女医第一号の荻野吟子先生、東京女子医科大学創立者 吉岡彌生先生を中心に1902年に創立され、2012年に110年目を迎える日本女医会は、女性と子供の健康を守ることに力点をおき、医療・医学に貢献することを目的に活動してきました。この度、女性医師がその力を十分に発揮して仕事を継続し、キャリアを育み社会的責任を果たしていくための提言を、医師および医学生から募集します。皆様のフレッシュな視点からのご意見をお待ちしております。

### 課題 『女性医師が継続してキャリアを育むための提言』

- 女性医師が、専門職としてのキャリアを重ねながら、子育てや介護を両立し、医師として正當に評価される社会を築くための提言
- 医療・医学の分野における男女共同参画社会の実現を図るため、政策・方針決定過程への女性医師の参画拡大を推進するための提言

- 1. 応募資格** 医師および医学生
- 2. 応募要領**
  - 1) 1200字以内
  - 2) 原稿はWordで執筆し電子メールに添付で日本女医会事務局まで送付。
  - 3) 添付資料：提言の題名、住所、氏名(ふりがな)、生年月日、電話番号、メールアドレス、所属・役職名(医学生は大学名・学年も)を明記した別紙を添付して下さい。
- 3. 入選者数** 当会理事会による厳正な審査を経て3名以内の方を入選とする。
- 4. 募集期間** 平成24年10月1日(月)～平成25年2月28日(木)  
平成25年2月28日(木)送信分まで受付
- 5. 入選発表** 平成25年4月1日(月)
- 6. 表彰** 平成25年5月19日開催の第58回日本女医会定時総会(宮城県仙台市にて開催予定)において行い、賞状および賞金を授与する。賞金は一人2万円とする。
- 7. 注意事項**
  - ・応募論文の著作権は(公社)日本女医会に帰属します。
  - ・入選論文は(公社)日本女医会のホームページに掲載されます。
- 8. 提出・問い合わせ** (公社)日本女医会事務局 <http://www.jmwa.or.jp/>  
Tel: 03-3498-0571 FAX: 03-3498-8769 e-mail: office@jmwa.or.jp  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目8-7 青山宮野ビル3F

### 投稿募集

広報部では、誌面に掲載する皆さまからの原稿を募集しております。お仕事に関する活動や思い、日常の雑感、お住まいの地域のご紹介など400～800字程度におまとめ下さい。

送り先: 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル3階  
FAX: 03-3498-8769 email: office@jmwa.or.jp

なお、編集の都合上、掲載時期、採否につきましては広報部一任とさせていただきます。また写真・資料を含む応募原稿の返却はできかねますので、大切なお写真などはデータでお送り下さい。

### 編集後記

平成25年最初の会誌213号が発行されました。前号に引続き「私と仕事の両立」が記事になっています。今回は日本女医会前会長の小田泰子先生が執筆して下さいました。さて昨年12月に恒例の流行語大賞が発表され、ノミネートされた流行語の中に「手ぶらで帰すわけにはいかない」という言葉が入っていました。これは昨年8月のロンドンオリンピックで競泳バタフライの松田丈志選手が男子4×100メートルメドレーリレーの決勝で日本が銀メダルをとった直後のインタビューで話した言葉です。金メダルの期待が高かった北島康介選手が、不振でまだメダルを一つもとれていなかった為、試合前夜の3名が「康介さんを手ぶらで帰すわけにはいかない」と話し合い皆で頑張ろうと決めたそうです。この言葉をテレビで聞いた時、とても感動しました。どんな分野でも他の人を思いやる心は大切だと思いました。 諏訪美智子

## 日本女医会誌

復刊第213号 2013年1月25日発行  
編集人 山本 纈子  
発行人 津田 喬子  
制作 あづま堂印刷齋  
発行所 公益社団法人日本女医会  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7  
青山宮野ビル  
TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769  
<http://www.jmwa.or.jp>  
e-mail: office@jmwa.or.jp